

社会福祉法人 ふれあい

平成 30 年度 事業報告

平成 30 年度 法人本部 事業報告

(1) 理事会の開催

○ 平成 30 年 6 月 6 日

- 第 1 号議案 平成 29 年度 法人本部及び各事業所 事業報告について
- 第 2 号議案 平成 29 年度 法人本部及び各事業所 決算報告について
- 第 3 号議案 平成 29 年度 監事監査報告について
- 第 4 号議案 平成 29 年度 決算結果に基づく法人資産登記に係る登記の実施について
- 第 5 号議案 社会福祉法人ふれあい 定時評議員会の招集について
- 第 6 号議案 軽費老人ホームサン・フラワー事業運営に係る借入金の借入期間更新について
- 第 7 号議案 役員の退職金等に関する規程について
- 第 8 号議案 退任役員慰労金の支給について
- 報 告 理事長の職務執行状況について
- そ の 他

○ 平成 30 年 7 月 18 日

- 第 1 号議案 社会福祉法人ふれあい 経理規程の一部変更について
- 第 2 号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用弁償に関する規程の一部変更について
- 第 3 号議案 役員の退職金等に関する規程案について
- 第 4 号議案 役員（理事長）の報酬について
- 第 5 号議案 臨時評議員会の招集について
- そ の 他

○ 平成 30 年 12 月 8 日

- 第 1 号議案 社会福祉法人ふれあい 理事の選任について
- 第 2 号議案 社会福祉法人ふれあい 臨時評議員会の招集について
- 第 3 号議案 法人本部及び各事業所 平成 30 年度中間報告について
- 第 4 号議案 法人本部及び各事業所 平成 30 年度補正予算案について
- 第 5 号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用弁償に関する規程の一部変更について
- 第 6 号議案 社会福祉法人ふれあい 定款細則の一部変更について
- 第 7 号議案 社会福祉法人ふれあい 経理規程細則の一部変更について
- 第 8 号議案 社会福祉法人ふれあい 就業規則の一部変更について
- 第 9 号議案 社会福祉法人ふれあい 育児・介護休業等に関する規則の一部変更について
- 第 10 号議案 軽費老人ホームサン・フラワー事業運営に係る短期借入金の借入期間更新について
- 報告事項① 平成 30 年度実地指導監査の実施結果の報告
- 報告事項② 理事長の職務執行状況の報告
- そ の 他

○ 平成 31 年 3 月 23 日

- 第 1 号議案 平成 30 年度法人本部及び各事業所 事業報告について
- 第 2 号議案 平成 30 年度法人本部及び各事業所 補正予算案について
- 第 3 号議案 平成 31 年度法人本部及び各事業所 事業計画案について
- 第 4 号議案 平成 31 年度法人本部及び各事業所 当初予算案について
- 第 5 号議案 社会福祉法人ふれあい 給与規則の変更について
- 第 6 号議案 社会福祉法人ふれあい 就業規則の変更について
- 第 7 号議案 社会福祉法人ふれあい各事業所 運営規程の改定案について
- 第 8 号議案 軽費老人ホームサン・フラワー入居保証金について
- 報告事項① 理事長の職務執行状況の報告
- 報告事項② 特養松楽苑 平成 30 年度松江市実地指導の実施結果について
- 報告事項③ 平成 29 年度簡易経営診断結果について

(2) 評議員会の開催

[定時評議員会]

○ 平成 30 年 6 月 22 日

- 第 1 号議案 平成 29 年度 法人本部及び各事業所 事業報告について
- 第 2 号議案 平成 29 年度 法人本部及び各事業所 決算報告について
- 第 3 号議案 平成 29 年度 監事監査報告について
- 第 4 号議案 平成 29 年度 決算結果に基づく法人資産登記に係る登記の実施について
- 第 5 号議案 軽費老人ホームサン・フラワー事業運営に係る短期借入金の借入期間更新について
- 第 6 号議案 退任役員慰労金の支給について
- そ の 他

[臨時評議員会]

○ 平成 30 年 8 月 21 日

- 第 1 号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用弁償に関する規程の一部変更について
- 第 2 号議案 役員の報酬について
- 報 告 社会福祉法人ふれあい 収支状況について
- そ の 他

○ 平成 30 年 12 月 21 日

- 第 1 号議案 社会福祉法人ふれあい 理事の選任について
- 第 2 号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用弁償に関する規程の一部変更について
- そ の 他 社会福祉法人ふれあい各事業所 収支状況について

(3) 監事監査の実施

- 平成 30 年 5 月 30 日
平成 29 年度社会福祉法人ふれあい・事業報告及び決算報告についての監事監査

(4) 行政、関係機関の指導等

- 平成 30 年 7 月 19 日
島根県（松江市と共催）平成 30 年度社会福祉法人監査指導説明会・研修会
- 平成 30 年 9 月 13 日
松江市実地指導監査（法人本部）
- 平成 31 年 2 月 12 日
松江市実地指導（特養松楽苑）
- 平成 31 年 3 月 25 日
松江市介護保険課・福祉総務課
平成 30 年度介護保険サービス事業者集団指導（特養・短期入所・通所介護・訪問介護）
- 平成 31 年 3 月 27 日
松江市介護保険課・福祉総務課
平成 30 年度地域密着型サービス及び居宅支援事業所集団指導（地域密着型通所介護・居宅支援）

(5) 研修関係

- 平成 30 年 7 月 9 日
平成 30 年度社会福祉法人経営者セミナー I
- 平成 30 年 7 月 19 日
平成 30 年度社会福祉法人指導監査説明会・研修会
- 平成 30 年 10 月 18 日
平成 30 年度社会福祉法人役員研修
- 平成 30 年 12 月 5 日
平成 30 年度社会福祉法人監事研修

- 平成 31 年 1 月 22 日
平成 30 年度社会福祉法人経営者セミナーⅡ

(6) 外部監査

- 平成 30 年 7 月 27 日
公認会計士・税理士による外部会計監査

(7) 総括及び活動報告

例年に比して、同一建物内での在宅サービスの減算と共にサン・フラワー利用者の減少により、平成 30 年度は特にサン・フラワー関係の収入の減少が目立った。利用者確保はもとより、利用者を選ばれる事業所であり、法人であるかということ踏まえ、サービスの質を中心とした現状の課題分析が急務といえる。また、人材確保に於いて、居宅介護支援センターの介護支援専門員の確保が困難なため、在宅サービスの利用率が低下していくことが否めないため、その対策が現状打開の鍵となる。また、事業内容の見直しも視野に入れていくべきである。

研修の積み重ねや、全国レベルでの事例発表の継続等、人材育成については努力し、また、中学校、大学、専門学校の研修機関として多少貢献できたと思う。法人として独立行政法人福祉医療機構に対して運営分析を依頼したことで、良い部分、弱点が明確となり、今後の運営に活用していきたい。

①理事会・評議員会

役員会は規程に沿って開催した。

12 月に於いては、評議員会の要望として補正予算の報告のための会を開催した。

②監査

法人監査、公認会計士による外部監査を計画的に実施した。

③役員研修会

研修に関しては事前に案内を送付したが、参加者も固定している。研修内容も限定している。

ミニ研修として基本的な部分の研修も必要と認識した。

④職員指導・教育について

今年度もふれあい全事業所の合同研修会を実施した。「選ばれる施設を目指して」というテーマでの研修に職員の関心も高く、多くの職員が参加し、その学習意欲の高さに今後さらに研鑽に努めることとした。各事業所に於いても、個別テーマにて研修を実施した。

⑤生活環境の整備

施設内でも季節の移ろいを肌で感じられる様な生活環境を作る為に、法人全体で季節の草花の植え込みに努めた。何年も経過していく中で、自然に季節の先取りする様に芽が出、蕾が膨らむ状態となって利用者や家族に喜ばれる環境となった。サン・フラワーに於いては6~7年前に植栽した桜が花開き、道行く人も楽しませている。

⑥地域貢献

施設行事への地域ボランティアの活用、奉仕活動への協力。松楽苑の開苑記念日に独居老人、老夫婦宅への手作りクッキーの配布は、今年度も継続できた。町内会の民生委員の方と連携し、独居の方への安否確認の訪問も継続して実施した。地域に対して社会福祉法人としての役割認識を更に高め、独自の取り組みを実施していきたい。

⑦サン・フラワー事業への取り組み

・運営改善について

今年も入所者拡大推進、サービスの質の向上、収支面での改善に取り組んだ。年間の入所者が減少している反面、退所者も減少しているが、今後はもっと健康管理を徹底させ、診療所とも連携をとり、異常の早期発見、早期治療に努めたい。

・金融機関借入金償還への対応

シンジケートローンの償還については、計画どおり償還出来た。金利等については、今後の方向性を見極めつつ、償還も含め関連銀行に意向を伝えながら、未来の施設運営を見据えて対応していきたい。

平成 30 年度 特別養護老人ホーム松楽苑事業報告

1. 管理部門

(1) 諸会議の開催

職員会議（全職員）	月 1 回
運営会議（施設長、各事業所及び部門リーダー）	月 1 回
看護職会議（看護職員）	月 1 回
介護職会議（介護職員）	月 1 回
厨房会議（栄養士、調理員）	月 1 回
身体拘束廃止委員会（委員）	月 1 回
事故防止委員会（委員）	月 1 回
床ずれ防止委員会（委員）	月 1 回
感染防止委員会（委員）	月 1 回
研修委員会（委員）	月 1 回
環境整備委員会（各職場代表）	月 1 回
リハビリ委員会（委員）	月 1 回
摂食委員会（委員）	月 1 回
入苑者懇話会（施設長、副施設長）	月 1 回
ふれあい、サン・フラワー運営改善会議	月 1 回

(2) 職員研修

①外部研修

キャリアパス対応研修、指導者研修、各種団体の研修に参加し、職員のレベルアップに繋がった。今年度も「ユニットケア全国実践研究フォーラム」に於いて、認知症の方とのコミュニケーションの工夫についてのテーマで実践発表を行った。また、介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修に 1 名参加し、資格取得することが出来た。

②施設内研修

研修委員会を中心に担当者を決め、講義及び実技、体験研修を行った。理論のみの内容であった研修もあり、次年度は実践に活かせ、身に付く研修、参加したいと思える研修内容を検討し、実践していきたい。サン・フラワー苑との合同研修では「選ばれる施設を目指して」という内容で実施し、グループワーク、発表を行った。

③研修参加者（延べ人数）

・外部研修（全職員）	33回	36人
・内部研修（全職員）	16回	290人
合計	49回	326人

(3) 職員の健康管理

健康診断	夜勤職員	年2回実施
	その他職員	年1回実施
検便	栄養士、調理員	毎月1回実施
	研修生、実習生	実習・研修の開始前
インフルエンザ等の予防接種	全員	

(4) 防災対策

○活動内容

- 30年4月：避難訓練、通報訓練、消化器訓練
- 5月：避難訓練、通報訓練、放水訓練
- 6月：避難訓練、通報訓練
- 7月：避難訓練、通報訓練、放水訓練
- 8月：非常連絡網の連絡訓練
- 9月：避難訓練、通報訓練
- 10月：避難訓練、通報訓練
- 11月：本庄消防団との合同訓練（避難訓練、通報訓練、消火訓練）
- 12月：避難訓練、通報訓練
- 31年1月：避難訓練、通報訓練
- 2月：避難訓練、通報訓練
- 3月：松江北消防署東部分署防災教育（避難訓練、通報訓練、放水訓練）

上記のように1年間の活動計画にそって活動、実施し、評価、実施内容を見直した。

そのほかには毎月1回以上の防災チェック（避難経路確保、居室の安全確認など）を行った。

(5) 設備等の保守管理

施設建物に係る電気・防災・浄化槽・ボイラー等についての保守は、それぞれの管理委託先業者により実施した。

(6) 物品等の取得

固定資産物品	・天井吊型エアコン (ホール) 65万5千円	・カラー複合機 15万千円	
	・ポジショニングベット 26万7千円×2台		
	・高圧気中開閉器 更新 45万3千円	・高圧変圧器 104万4千円	
器具備品	・保温ジャー	・ブレンダー	・床頭台 50台
	・給湯器 更新	・加湿器	・更衣室用ロッカー
	・洗濯機	・車椅子 4台	・リクライニング車椅子
	・座位保持自走型車椅子 2台		

(7) 研修等の受け入れ状況

- ・島根大学 (教員育成課程)
- ・松江市立本庄中学校
- ・松江看護キャリア支援センター (認知症看護認定看護師教育課程)

(8) ボランティアの受け入れ状況

団体	15団体
個人	15名

タオル、ウエス他ご協力いただいた方

団体	1団体
個人	15名

(9) 入所ご利用者預り金管理

預り金に関しては、基本的に家族管理とし、介護保険制度以前からのご利用者でやむ負えない事情がある方のみ預金管理を実施している。

平成31年3月31日現在

人数	1名
金額	367,749円

2. 生活相談部門

- (1) 利用者の今の状態を理解し、ニーズの把握を行う。
各職種の職員と連携を取り、把握に努めた。
- (2) 利用者とのコミュニケーションを積極的に図り、信頼関係の構築に努める。
利用者へ積極的な声かけをし、何でも話せる関係作りに努めた。
- (3) 入苑者懇話会からの声や、日常の利用者からの思いをくみ取り、苦情や要望については早期の問題解決、適切な対応を行う。
利用者目線で物事を捉え、入苑者懇話会での意見については、現状を把握し、問題解決に努めた。
- (4) ショートステイの受入については、利用者、家族、各居宅介護支援事業所と連絡を密にし、利用者に合ったサービスが提供できるよう調整する。入院などの空床利用についても迅速な対応をする。
5床はほぼ稼働出来たが、入院時の空床利用については、空きが出る月もあり、全体の稼働としては下がった。後半より新規利用者も増加傾向にあり、利用者に合ったサービスが行えるよう各職種とさらなる連携を図りたい。
- (5) 各関係機関への書類提出については、正確かつ迅速に行う。
必要な提出書類については、速やかに対応出来た。

3. 機能訓練部門

個別機能訓練計画書に基づき、個々の身体状況に見合った生活リハビリを行った。3ヵ月毎に評価、見直しを行いご家族様へ同意を得た上で、生活・身体機能維持が出来る様に努めた。訓練指導員が中心となり、体操やレク活動を行う事で機能維持のみならず、ご利用者との交流の場にも繋がっている。

毎週、水、土曜日のカンファレンスの際には問題提供し共有を図り、介護、看護、他スタッフとの連携し訓練を行う事でADLの維持や低下の予防に努めた。

ご利用者の状況に合わせた個別レクリエーション、集団レクリエーションを実施し、日常あまり交流の無い方々も参加される事で他者との関わりを持つ事が出来た。課題として、参加されない方へのアプローチの工夫が必要であり、早急に問題解決に取り組む。また、創作活動を行い、季節に応じた作品をご利用者様と共に作成し居室に飾る事で、ご利用者様の毎月の励みになっている。今後も継続する。

今年度より、陽だまりクラブ（おやつ作り）が発足した。認知症である方もない方も一緒の空間でおやつ作りを行い、集い、笑い、それぞれ得意とする役割分担を行う事で、日常の活性化に繋がった。今後も創意工夫をし、次年度も継続する。

4. 介護支援専門員

- ・毎週、カンファレンスを開催しており、現在特に問題点のある利用者に対しての対応策を検討した。
- ・決まった事をケアプランに盛り込み実践へと繋げていった。
- ・ケアプランについての評価（モニタリング）を各ユニットで毎月行い、状態等で変化があった利用者は、カンファレンスにかけてプランの変更を行った。
- ・モニタリングではプランに沿っての評価が出来た。

5. 看護職部門

1、利用者の動向（H30年4月～H31年3月31日）

①退苑者 13名

- ・苑内で亡くなられた利用者 8名：老衰、慢性腎不全急性増悪
- ・治療が継続のため退苑された利用者 2名：誤嚥性肺炎、脳梗塞（嚥下困難）
- ・入院中に亡くなられた利用者 3名：意識レベル低下、肺炎、腎結石

②年間入院回数 23回：同一利用者複数回含む

主な疾患名：肺炎、下血（人工肛門造設術）、心不全、尿路感染、意識レベル低下
原因不明の嘔吐、脳梗塞、誤嚥性肺炎（胃瘻造設術施行）、総胆管結石
腎結石、肉腫。

③受診：皮膚科、血液内科・口腔外科、婦人科、整形外科(骨折)、外科(縫合)、消化器内科検査、胃瘻抜去

2、ご利用者の健康管理について

- ①入院、受診が多く、治療後退院も早かったが、重度化することもあり、日常生活での観察が大切だと感じた。「いつもと違う」早期発見が出来て早期受診を心がけていたが、常に出ていなかったので、利用者の安全・安心な生活を過ごして頂くために、看護師は観察力、判断力を向上させるための努力を怠らない。
- ②皮膚剥離、褥瘡発症が起こり治癒しても、繰り返しているため、対策を介護職への指導を含め強化していく。
- ③便秘に対する取り組みを継続して、快便を目指していく。

3、感染対策について

- ①平成 30 年 4 月にインフルエンザ発症 4 名あり、8 日間で終了。
 - ・インフルエンザ対策として、「持ち込まない」「拡げない」を合言葉に、発熱者の早期隔離、面会謝絶、利用者の食事・水分への関わりと支援は出来た。

- ②ノロウイルス対策は、嘔吐場面を想定しデモストを実施した。
- ③インフルエンザ予防接種、肺炎球菌予防接種、結核検診等予定通りに実施した。

4、まとめ

- ①「看取りケア」に関して、ご家族の望まれる苦痛のない穏やかな最期を過ごして頂けるよう、早目のご家族とのカンファレンスの調整役として行動すること。「静養室での過ごし方」を作成したので、全職員で実践できるようにしていく。今後も、ご家族・本人様が悔いの残らないよう、お気持ちに寄り添う関わりを心がけていく。
- ②「食、水分」についての分析と、自然な排便に向けて、全身の利用者観察と把握、多職種との連携と介護職への指導・支援を継続していく。

6. 介護部門

H30年度は「専門職としての自覚を持ち、自己研鑽に努め介護技術、知識の向上を図る」と「ご利用者目線、立場に立った介護実践」の二点を目指し取り組みを行った。介護技術、知識の向上に関しては、施設内研修の実施や個別での教育、指導などで施設職員全体のレベルアップを図った。現状では個々の技量には差が見られる状況であり、統一した介護実践に向けて教育、指導体制の強化を図り、ご利用者の満足度を高めることが出来るように努めていく。ご利用者目線の介護実践に関しては、ご利用者の求めていることをタイムリーに実践出来るよう、今後も個別ケアを重視して関わっていく。

今年度は、認知症ケアの一つとして「ひだまりクラブ」が発足した。ひだまりクラブでは、普段帰宅願望などで落ち着かず、施設内を徘徊されることが多い方達などを中心に、落ち着いた空間の中で紙芝居など昔の馴染みのあるものを楽しまれたり、それぞれが役割をもっておやつ作りを楽しまれるよう、その人らしさを活かす関わりを実践した。その結果、普段徘徊が多く不安な表情をされていたご利用者も、穏やかな表情で笑顔も増えた。今後もひだまりクラブの活動は継続して実践し、生活の中に楽しみや、やりがいを感じて頂けるよう関わっていく。

次年度に向けても今年度の振り返りを活かして、今よりも良いものを目指して介護実践をしていく。

(1) ミニ委員会活動報告

■事故防止委員会

事故が発生してから、原因の分析からその対策を検討し、実践している状況が多く見られた。事故を予防する為に日々の細かな状況観察をし、その中から事故に繋がりそうな事象を未然に排除出来るよう危険予測をすることを徹底していくことが必要であった。

次年度に向けては、職員が危険予測を意識した介護実践を出来るよう、委員会が中心となって事故防止の取り組みを行う。

■身体拘束廃止委員会

身体を直接拘束するような事例はなく、拘束がないように他の方法を検討し実践していた状況であった。だが、直接拘束するような場面はなくても、「ちょっと待ってください」と言葉でその場に留まらせるような声掛けをしてしまう場面があり、その言葉を使ってしまう前に、まずは要件を伺うことや、クッション言葉を使うなどの対応を意識して実践できるようにしていく必要があった。

次年度に向けては、特にスピーチロックの廃止を中心とした取り組みを行っていく。

■床ずれ防止委員会

床ずれの発生は見られたが、個々の状況に合わせて速やかに対応することが出来た。ご利用者の中でも皮膚トラブルが起きやすい方のリストを作成し、そのリストより個々の気を付けるべきポイントを周知し、予防出来るよう実践した。

次年度も今年度の活動を継続し、床ずれ防止に努める。

■感染防止委員会

4月にインフルエンザの発症があったが、居室で生活していただくことを基本として医務とも連携をとって大事に至ることはなかった。それ以降は季節ごとの感染症が施設内で発症することなく、ご利用者には穏やかに生活していただくことが出来た。施設内に感染源を持ち込まないよう、職員に対しては自己の健康管理を徹底することと、ご利用者に対しては日々の状態観察を細かく行い、異常の早期発見をするとともに感染予防に努めた。

■防災委員会

今年度も地域の消防団、消防署と合同で訓練を実施することが出来た。施設内の訓練においても消火器、消火栓を使用した消火訓練の実施や、新人を対象とした防災教育実施など施設内の防災意識の向上に努めることが出来た。

次年度に向けても施設内の防災管理、職員指導を行っていく。

■研修委員会

年間計画に沿って研修を実施し、その後実際に研修で学んだことがどう現場で実践されているか評価を行った。介護職技術研修においては、介護職が主体で実践できるよう委員会も協力しながら研修の実践に繋げることが出来た。

次年度も計画に沿った研修の実施をしながら、タイムリーな内容の研修も行っていく。

■環境整備委員会

各部署が連携を取り、苑内外の環境整備を行った。

次年度も施設内外の環境整備を今年度同様、各部署と連携を図って取り組み。

■喀痰吸引安全委員会

毎月の喀痰吸引などの実施報告、進捗状況の把握、実施利用者数等は委員会を通して報告を行った。介護職員には安全かつ的確に喀痰吸引が実施できるように随時指導を行っている。

今後も医師、介護職と連携を図り委員会活動に取り組む。

■広報委員会

広報誌（ふれあいだより）の送付や各行事についてのご案内をさせていただいた。年2回発行のふれあいだよりは、ご利用者に題字を書いていただくなど共同で作成させてもらった。

次年度に向けては、行事は日常の様子の写真をもっとふれあいだよりに掲載出来るようにし、また、委員会も毎月行い、より良い広報の発行が出来るように内容についてもしっかり協議していく。

(2) 地域交流

今年度もふれあいまつりを始めとする様々な行事にご家族様、ボランティアの皆様、地域の方々と多くの方が参加いただいたことで活発な交流を図ることが出来た。ご利用者の皆様にとっても、良い刺激となっている交流の場を今後も大切にしていきたい。

7. 栄養・調理部門

(1) おいしく温かい食事を提供する。

ご飯と汁ものはホールで配膳し、いつも温かい食事が食べていただけるようになった。

前半は献立によっては昼食の配膳時間に波があったが、業務を見なおすなどして後半は時間通りにスムーズに配膳できるようになった。献立に関しては、サンフラワーの栄養士と1カ月交代で献立を立てることによって、偏らず、飽きのこない献立が提供できるように努めた。

(2) 食事形態の見直しと自力摂取を促すための工夫をする。

食事時のラウンドを行い、ご利用者様の食事摂取状況や自助具、食器の確認をし、日々のミーティングやカンファレンスで提案し変更した。しかし、食事のことだけに集中してしまい、ご利用者様の全体像を見て対応することができない部分もあったので、介護・看護と連携をしっかりと取って広い視点でご利用者様に関われるようにしていきたい。

(3) 低栄養・脱水予防に努める。

特に夏場の水分に関しては、水分のレパートリーを増やして一人ひとりが飲みやすい水分を提供したり、目標の摂取量を多めに設定し、夜間に水分補給の回数を増やしてもらうなどしてご利用者様が脱水にならないように介護職と連携を取りながら対応した。

低栄養予防に関しては、献立のタンパク質の量を増やして1日60～65g摂取するようにした。食事が食べられない方への対応も速やかに行った。血液検査ではアルブミン値が全体的に上がった。

(4) 衛生管理・事故防止などの予防を行う。

年間を通して食事からの食中毒や感染症は起こすことはなかったが、嘔吐・下痢、インフルエンザや風邪対応などが流行った時の献立や調理の対応が日頃からきちんと出来るようにマニュアルの確認を継続していくことと掃除などの衛生管理を徹底していく。

平成 30 年度 松楽苑利用者概要（入苑者の状況）

(1) 性別・年齢別【人】						平成31年3月31日現在	
性別	60歳 ～64歳	65歳 ～69歳	70歳 ～79歳	80歳 ～89歳	90歳 以上	計	平均年齢
	男	0	0	3	4		
女	0	0	1	12	26	39	90.8
計	0	0	4	16	30	50	87.7

(2) 主要現症（入所申し込み診断書）【人】												
	脳卒中		脳動脈硬化症	骨折	変形性脊椎症	変形性腰痛症	リュウマチ	パーキンソン	高血圧症	糖尿病性神経炎	認知症	計
	脳梗塞	その他										
男	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	10
女	6	2	0	7	0	0	0	0	5	1	19	40
計	9	2	0	8	0	0	0	0	5	1	25	50

(3) 日常生活動作【人】														
			食事			起座			立ち上がり			排泄		
			自立	一介	全介	自立	一介	全介	自立	一介	全介	自立	一介	全介
人数			11	18	21	11	9	30	3	23	24	0	24	26
着脱衣			入浴			歩行			寝返り			車椅子使用		
自立	一介	全介	自立	一介	全介	自立	一介	不可	自立	一介	全介	自立	一介	全介
0	30	20	0	9	41	2	4	44	11	11	28	8	11	31

平成 30 年度 研修状況 特別養護老人ホーム松楽苑

月・日	研 修 名	主 催
4・13	平成 30 年度 第 1 回松江圏域老人福祉施設協議会総会	松江圏域老人福祉施設協議会
4・23	平成 30 年度特別養護老人ホーム部会研修会 2018 年度介護保険制度改正と社会保障制度のゆくえ	島根県老人福祉施設協議会
4・25	平成 30 年度新任職員マナー研修	島根県社会福祉協議会
5・30～31	平成 30 年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 〔チームリーダーコース〕	島根県社会福祉協議会
6・6	できる管理者になる 5 つの急所セミナー	モチベーション・アップ株式会社
7・2	平成 30 年度島根県老人福祉施設協議会第 1 回総会	島根県老人福祉施設協議会
7・4	平成 30 年度労務管理研修	島根県社会福祉協議会
7・11～12	平成 30 年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 〔中堅職員コース〕	島根県社会福祉協議会
7・19	平成 30 年社会福祉法人指導監査説明会・研修会	島根県、松江市
7・26	第 2 回松江圏域老人福祉施設協議会 連絡会	松江圏域老人福祉施設協議会
8・22	施設ケアマネ&生活相談員研修会	松江圏域老人福祉施設協議会他
8・29	平成 30 年度指導的職員研修 I	島根県社会福祉協議会
9・12～13	平成 30 年度コミュニティソーシャルワーク実践基礎研修 《前期》	島根県社会福祉協議会
10・4	平成 30 年度島根県老人福祉施設協議会医療ケア研修会	島根県老人福祉施設協議会
9・20	管理職・リーダーの法則セミナー	竹本社会保険労務士事務所
10・10	平成 30 年度人事管理研修 II	島根県社会福祉協議会
10・11	平成 30 年度中堅職員スキルアップ研修 I	島根県社会福祉協議会
10・15	高齢者福祉サービス経営セミナー	島根県社会福祉法人経営者協議会
10・15	平成 30 年度福祉サービス苦情解決研修会	島根県運営適正化委員会
10・22	平成 30 年度介護職員等によるたんの吸引等の実施のための 研修（講義）	島根総合福祉専門学校
10・30～31	平成 30 年度介護職員等によるたんの吸引等の実施のための 研修（講義）	島根総合福祉専門学校
11・5～ 6	平成 30 年度介護職員等によるたんの吸引等の実施のための 研修（講義）	島根総合福祉専門学校
11・5	第 29 回島根県老人福祉施設協議会研修大会	島根県老人福祉施設協議会
11・7	平成 30 年度指導的職員研修 II	島根県社会福祉協議会
11・13～14	平成 30 年度介護職員等によるたんの吸引等の実施のための 研修（講義）	島根総合福祉専門学校
11・14～15	平成 30 年度社会福祉法人会計実務研修〔中級コース〕	島根県社会福祉協議会

11・16	平成30年度コミュニティソーシャルワーク実践基礎研修《後期》	島根県社会福祉協議会
11・26	平成30年度介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（筆記試験・演習）	島根総合福祉専門学校
11・29	平成30年度リスクマネジメント研修Ⅱ	島根県社会福祉協議会
12・6	平成30年度社会福祉法人会計実務研修〔上級コース〕	島根県社会福祉協議会
12・12	高齢者虐待の防止に係る研修会	島根県
12・13～14	平成30年度介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（演習）	島根総合福祉専門学校
12・13	平成30年度第3回松江圏域老人福祉施設協議会 連絡会	島根県社会福祉協議会
12・26	平成30年度社会福祉法人地域公益活動推進セミナー	島根県社会福祉法人経営者協議会
2・19	高齢者施設向け直営支援型セミナー	株式会社ナリコマエンタープライズ
2・27	平成30年度人権研修	島根県社会福祉協議会
3・9～10	第18回気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム	気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム実行委員会
3・12	平成30年度島根県老人福祉施設協議会第2回総会	島根県老人福祉施設協議会

平成 30 年度 本庄デイサービスセンター事業報告書

1. サービス計画書に沿ってのカンファレンスを行い、ニーズに基づいて通所、予防介護計画書、及び機能訓練計画書の作成を行い、サービスの個別化、又利用者様の状況に応じた介護の提供を行い家族様、本人様に説明同意を得た。
利用者様、家族様との連携を密に図った。今後も、継続していきたい。

2. 介護支援専門員との連携

随時、担当者会議を行い連携を図った。月末には情報提供書を作成し、報告を行った。
利用時の特変、また家族様からの要望等あれば、速やかに連携を図る事が出来た。

3. 職員の資質の向上

研修	食中毒、熱中症、感染症、防災訓練、認知症、虐待防止、職員の心得（倫理） 事故事例、事故防止、法令遵守、身体拘束、プライバシー保護、接遇について 送迎について、緊急時対応、吸引について、メンタルヘルスケア、口腔ケア
----	--

外部研修：メンタルヘルスケア、介護予防と自立支援の考え方と介護予防について、高齢者の皮膚特徴とスキンケア、身体拘束等の適正化に向けた介護制度改正とその取り組み。苑内研修に参加する。職員資質向上に努めた。

朝礼の継続を行い前回の利用者様の特記事項等の情報の共有、職員との連携を図った。

定期的に職員会議を行った。職員の自己評価も行った。

今後も継続して行っていく。

外部研修参加状況

月・日	研 修 名	主 催
5・9	平成 30 年度 デイサービス部会研修会 デイサービスにおける稼働率向上と生活相談員の役割	島根県老人福祉施設協議会
9・3	平成 30 年度公正採用選考人権啓発推進員研修会 並びに企業内人権同和問題トップセミナー	松江公共職業安定所
10・4	平成 30 年度島根県老人福祉施設協議会医療ケア研修会	島根県老人福祉施設協議会
10・17	平成 30 年度メンタルヘルス研修 I	島根県社会福祉協議会
3・18	平成 30 年度介護予防・日常生活支援総合事業に関わる 研修会	松江市介護保険課

4. 利用者様、家族様との信頼関係

送迎時、連絡帳の活用により、家族様との情報交換を密に行った。又、利用者様、家族様の要望にその都度対応を行い、連絡事項等を速やかに職員間での情報共有に努めた。苦情が出なかったことに満足せず、今後も利用者にとって気持ちの良いサービス提供していきたい。

5. 機能訓練、レクリエーションの充実

機能訓練計画書に基づき、利用者様の体調に合わせて行い、体操内容のマンネリ化にならないようにつとめた。

レクリエーション（作品作り、おやつ作り、ゲーム、外出訓練、ボランティア様による演芸等）を楽しんで頂いた。

今後も工夫をしながら提供していく。

6. 各サービスの充実

特変時、主治医、家族様、ケアマネに報告、連絡を行う。又、主治医の指示のもと処置を行った。

利用者様の体調、嗜好に合わせて報告行い、体替にて食事提供を行った。

利用者様が楽しく、過ごしていただけるように、満足して頂けるように、サービス提供を行いたい。

利用者ごとに合った個別ケア、接遇の徹底、自立支援を促す関わり、伝わりやすいコミュニケーション方法の検討を行い実践した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実利用者数	38	36	35	36	35	36	36	36	36	35	33	36
延べ利用者数	260	269	263	293	295	282	277	265	271	265	226	287
稼働率	87%	87%	88%	95%	95%	94%	89%	88%	87%	82%	81%	93%

平成30年度 本庄居宅支援センター 事業報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総件数	184	184	184	181	180	180	177	177	177	171	166	166
要支援1	17	18	18	21	20	21	20	19	18	17	14	14
要支援2	18	17	17	17	18	16	16	18	19	16	16	16
要介護1	59	56	56	56	54	53	51	52	51	53	54	55
要介護2	41	42	41	38	37	35	37	36	36	34	31	30
要介護3	28	30	31	29	28	30	29	29	31	30	34	35
要介護4	15	15	15	13	15	15	15	15	13	12	10	10
要介護5	6	6	6	7	8	10	9	8	9	9	7	6

平成30年度事業報告

常勤換算3.4名で居宅支援活動を行った。居宅事業所としての法定件数は満たしているが、法人内事業所の運営安定を図るため介護支援専門員の補充を行い、担当件数の増加を図る事が課題である。

「強み、特色のある事業所づくり」

各種研修の参加、自己学習を通じ知識や実践力を身につけられるよう取り組みを行った。介護保険サービスを超えた多様な制度活用や支援が必要となるケースも増えており、幅広い対応が出来るよう継続して学ぶ姿勢を持ち、知識実践力の習得に努めたい。

「地域貢献」

地域の医療介護連携会、市民講座への参加、民生委員会への参加、地区の見守り活動の参加を行った。地域の実情に合わせた活動を展開できるよう協力体制をとっていきたい。

「法人内事業の安定」

法人内事業所の稼働率の変動に即座に対応出来ておらず今後の課題である。常に運営意識を持ち継続性、安定性のある事業展開が図れるよう努めていく。

「職種間連携」

利用者のタイムリーな情報共有を心掛け連絡交換を密に行った。的確な情報把握、体調悪化や機能低下が妨げるようチームケアを念頭に連携を強化し、一体的なケアの充実を図れるよう支援する。

「研修報告」

- ・ 第一回ブロック連絡会
- ・ 持田地区民生委員ケアマネ交流研修会
- ・ 八束地区民生委員ケアマネ交流研修会
- ・ 介護予防マネジメント研修会
- ・ 美保関地区民生委員意見交換会
- ・ 島根地区民生委員合同研修会
- ・ 事例検討会
- ・ 第15回松江市医師会松江地区介護支援専門員合同研修
- ・ 松江市ケアマネ研修会

平成 30 年度 軽費老人ホーム サン・フラワー苑事業報告

1. 平成 30 年度 入居者実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数	2	4	2	1	1	1	1	2	1	1	2	0
退去者数	1	2	2	7	3	1	6	4	3	2	1	0
月末 入居者数	122	124	124	118	116	116	111	109	107	106	107	107

特記事項

- ① 4月からの新規入居者数は18名、退去者数は32名である。
その内訳は、特養等他施設へ12名、自宅へ5名、入院中治療継続のため6名、死亡9名であった。
- ② 利用者様の重度化が進み入院されることが多く、日頃から健康状態に留意して、介護職員と看護職員が連携し異常があれば早期に診療所、病院受診をして疾病が悪化しないように努めなければならないと実感した。
- ③ 境港市からの入居が多く見られたが、反面境港の施設への転入や在宅復帰の実例が多く見られた。
- ④ 入居者増加への取り組みが、後半に実施できない状況であった。
- ⑤ 職員の接遇や環境の充実を図り、利用者へのサービスの質を向上させ、入居されている利用者様・家族が満足され新規入居者への紹介と繋がるように努力しなければならない。

2. 入居者増加に向けた取り組み

- ① パンフレット、広報誌を松江市内、松江市周辺地域の病院（総合病院、生協リハビリ病院、玉造病院、こなんホスピタル、青葉病院、医療センター、松江記念病院、八雲病院）居宅介護支援事業所、地域包括センター（社会福祉協議会）を訪問・持参した。
訪問先事業所の相談員、ケアマネに特色をアピールした。その後は定期的に訪問した。
- ② 境港市を中心に、地域包括や総合病院の相談室に訪問し事業所のPR活動を行った。
- ③ ホームページの更新を随時行い、行事、レクリエーションの様子を掲載してきた。
- ④ 事業者間連携をはかり、情報を共有し利用者確保に努めた。

3. 諸会議の開催

運営改善会議（法人各事業代表者による入居者拡大推進に向けて）	月 1 回
職員会議（相談員、介護職員）	月 1 回
厨房会議（管理栄養士、調理員）松楽苑との合同会議 2 回	隔月
感染防止、身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会（委員）	3 ヶ月に 1 回、タイムリー
事故防止、環境整備委員会（委員）	3 ヶ月に 1 回、タイムリー
入居者懇話会	月 1 回

4. 研修会

(1) 苑内研修会

4 月 認知症～園芸療法について～

5 月 法令遵守

6 月 脱水症と熱中症

8 月 AEDを使用した救命の手順

平成 31 年 3 月 よりよい介護施設を目指す、選ばれる施設になるために
(社会福祉法人ふれあい松楽苑との合同研修)

- ・サービスの質向上を目指し、施設で気持ちよく過ごして頂くため内容を深めていく。

5. 職員の健康管理

健康診断 夜勤者 年 2 回実施

その他職員 年 1 回実施

検便 栄養士 調理員 月 1 回

井水水道管理者 年 2 回実施

インフルエンザ予防接種 職員全員

6. 感染対策

- (1) 入居者の生活の中に、手洗い等組み込まれるよう声かけや表示で示している。
- (2) 家族や外部からの出入りがあり、入り口で手洗いを推進している。
- (3) 体調不良の入居様には診療所を受診して頂き、必要時は居室での対応とした。
今年度はインフルエンザ発症はなし。
- (4) 環境整備を行い、廊下の清掃、ゴミ捨て、衛生管理に努めていく。

7. 防災対策

活動内容 6月、8月に夜勤を想定したケアハウス内での訓練を実施
平成31年3月6日に合同訓練を実施
消防署、消防団員等参加で通報訓練、避難訓練、はしご車体験を行った。
○普段使用しない設備の操作が多いため、今後も定期的に手順確認を怠らない。

8. クラブ活動（月1回）

生け花クラブ 習字教室 買い物ツアー（月2回）

9. 年間実施行事

4月 お花見会 5月 由志園 6月 開苑記念 8月 夏祭り
9月 敬老会 12月 クリスマス会 1月 新年会

10. ボランティアの受け入れ状況

- ・関の五本松節保存会
- ・くにびき学園
- ・両手の花
- ・卓睦会（抹茶提供）

平成 30 年度 サン・フラワーデイサービスセンター事業報告

平成 30 年度実績（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

サン・フラワーデイサービスセンター利用状況（総合事業を含む）

月	営業日数	実利用者数 (外部登録者数)	延べ利用者数 (名/月)	平均利用者数 (名/月)	苑内	苑外	平均介護度
4 月	30	61 (6)	678	22.6	21.3	1.3	2.3
5 月	31	59 (6)	711	22.9	21.5	1.4	2.3
6 月	30	61 (6)	724	24.1	22.5	1.6	2.3
7 月	31	60 (6)	740	23.9	22.3	1.6	2.3
8 月	31	59 (5)	752	24.3	22.6	1.6	2.2
9 月	30	57 (5)	690	23.0	21.5	1.5	2.3
10 月	31	57 (5)	702	22.6	21.1	1.5	2.3
11 月	30	57 (5)	681	22.7	20.9	1.8	2.4
12 月	31	56 (5)	704	22.7	21.3	1.5	2.3
1 月	31	54 (5)	668	21.5	20.2	1.4	2.2
2 月	28	56 (5)	628	22.4	20.9	1.5	2.1
3 月	31	56 (5)	701	22.6	21.2	1.4	2.1
計			8,379 名	23 名	21.5 名	1.4 名	2.3

登録者総数 56 名 *介護：55 名(外部 5 名) *総合事業：2 名

月平均延べ利用者数：698.3 名 一日の平均利用者数：23 名(目標遂行率 94%)

登録居宅総数：8 事業所(新規 3) 平均介護度：2.3 (H31.3 現在)

(特記事項)

介護報酬の改定（利用料が 1 時間単位となる）、短時間利用者が平成 29 年度は約 20%であったが、平成 30 年度は約 10%と半減し、目標遂行率 94%だった。

ケアハウス併設のデイサービスとしての機能の明確化とサービスの確立が必要である。利用者確保のためには引き続き担当ケアマネ・各居宅支援事業所等との綿密な連携を行い、選ばれるデイサービスとして接遇・介護ケア・専任作業療法士による個別活動の充実と教育を継続する。

定例勉強会(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

月 日	内 容
4 月 8 日	高齢者に多い疾患と介護の基本①
5 月 20 日	高齢者に多い疾患と介護の基本②
6 月 10 日	接遇マナー①
7 月 15 日	接遇マナー②
8 月 5 日	緊急時対応
9 月 9 日	認知症ケア
10 月 7 日	介護事故・ヒヤリハット①
11 月 4 日	介護事故・ヒヤリハット②
12 月 9 日	感染予防①
1 月 13 日	感染予防②
2 月 3 日	利用者満足度について
3 月 3 日	高齢者虐待

行事・レクリエーション

月日	内容	クッキングレク
4 月 2 日～3 日	ドライブ (花見) 一本松	
5 月 14 日～20 日	ドライブ (花見) 八束町	
6 月 9 日	開苑記念式典	ホットケーキ
7 月 2 日～8 日	七夕会、うちわ作り	
8 月 18 日	夏祭り	
9 月 19 日	敬老会	蒸しパン
10 月 14 日～20 日	ドライブ (買い物レク) 境港・松江	
11 月 4 日～10 日	紅葉のドライブ 松江・島根半島方面	焼き芋
12 月 17 日～23 日	クリスマス会	
1 月 9 日～11 日	初詣 美保神社	
2 月 18 日～24 日	節分・まめまき	ホットケーキ
3 月 1 日～5 日	河津桜 花見ドライブ	

(特記事項)

4 月前半・後半と苑内インフルエンザが発生。花見ドライブは少なかったが、小グループ活動として折り紙・ちぎり絵など机上活動や抄読会も定着した。今後も利用者個々に対応した余暇活動を取り入れ、楽しみや生きがいの持てるデイにしていきたい。

平成 30 年度 ヘルパーステーションふれあい事業報告

1 方針

今年度は同一建物減算 15%、生活援助単位数低下と合わせ収益が大幅の減少となった。またケアハウス入所者増減に伴いヘルパー利用者数も変わってくるため、事業運営にも大きな影響を受けている。職員状況については 9 月に正規職員 1 名の採用があったが退職者 1 名もあり足踏み状況である中、10 月からサ責 1 名が診療所兼務勤務となり更に稼働実績が伸び上がらなかった。勤務年数が長い専門的な技術を習得した職員が多いため、大きな事故や苦情は無く一人一人が職務を果たすことができている。今後も基本理念を元に安全で質の高いサービス提供をしていく。

2 目標

- ・職員各自が自己の問題点・反省点を常に考えて責任を持って業務を遂行し、良質で専門的なサービス提供を行った。
- ・内部、法人研修などは積極的に参加し訪問介護の専門職としての技術及び意識の向上に努めたが、外部研修の参加ができなかった。

3 サービス提供実践における取組

- ・職員各自の疾患や感染症などあり健康管理等の徹底は難しい事があったが、協力をし合い業務に努める事ができた。また接遇マナーを徹底し、常に笑顔で思いやりの心を持ってサービス提供を行った。
- ・各種会議の定期的及び随時開催・参加・同行訪問等の実施を行った。
- ・ご利用者・家族の介護ニーズに対する適切な訪問計画書及び手順書・情報書・ケース記録などの作成や整備を行い、統一された質の良いサービス提供ができる。また関連法令及び基準等に沿った適切なサービス提供を行った。
- ・職員の資質の向上、介護技術のレベルアップを図るため、全職員を対象に内部研修計画を作成・実践を行った。
- ・大きな事故は無かった。ヒヤリハット報告については再発防止等の検討を行った。
- ・苑内外各部署との連携を常に図り、緊急時、災害時、防災時、感染時などの対応・連携について適切かつ速やかに行えるように努めた。また合同防災訓練に多数参加し苑内防災について周知徹底を行う事ができた。
- ・苑内サービスを提供する上でご利用者の生活や健康観察・確認を行い異常の早期発見に努め、ケアハウスとの健康管理の連携を図った。
- ・ご利用者、家族の意向、満足度に対するアンケートを実施し、訪問介護サービスについての状況やお困り事など確認、評価、見直しを行った。

4 サービス利用拡大・促進

- ・関係機関（ケアハウス・居宅介護支援事業所・通所介護事業所）との連携・情報収集に努めサービス見直しや提案を行っているが、ケアマネからは毎月の利用者情報書による提案やサービス見直しの返答が少なかった。
- ・当法人内の介護保険サービスをご利用していただける事ができるように、全職員が常にパンフレットを持参して紹介や施設見学に繋げる事ができるように努めた。

平成 30 年度研修実施状況

(内部)

月	研 修 内 容	月	研 修 内 容
4 月	介護保険制度について 法令遵守について	10 月	介護技術について (身体介護 実技含む)
5 月	接遇マナーについて ホームヘルパー倫理綱領について	11 月	感染症・食中毒予防及びまん延の防止について (インフルエンザ・ノロウイルス)
6 月	感染症・食中毒予防及びまん延の防止について (事例も含む)	12 月	介護技術について (生活援助 相談・助言援助など)
7 月	高齢者に多い疾患と介護の基本	1 月	高齢者虐待防止対策について 身体拘束について
8 月	介護事故・ヒヤリ・ハットについて (事例も含む)	2 月	防災、緊急時について
9 月	認知症ケアについて	3 月	法人合同研修 (より良い介護とは) 自己評価、年間の振り返り

(外部)

日 時	主 催	研 修 内 容
3 月 18 日	松江市健康福祉部介護保険課	平成 30 年度介護予防・日常生活支援総合事業に関わる研修会
3 月 25 日	松江市健康福祉部介護保険課	平成 30 年度介護保険サービス事業者 (在宅サービス) 集団指導

平成 30 年度利用実績 (予防・総合事業含む)

	利用者数/名	身体介護/時間	生活援助/時間	総合事業/回	利用料合計/円
平成 30 年 4 月	76	392.0	389.0	16	3,126,250
平成 30 年 5 月	77	382.0	418.5	16	3,140,980
平成 30 年 6 月	77	362.3	394.5	16	2,544,870
平成 30 年 7 月	76	383.0	433.0	16	2,722,560
平成 30 年 8 月	75	360.0	437.0	16	2,634,280
平成 30 年 9 月	77	337.0	407.5	19	2,536,660
平成 30 年 10 月	74	316.5	388.5	20	2,399,510
平成 30 年 11 月	72	330.0	381.5	24	2,454,660
平成 30 年 12 月	73	359.0	402.0	24	2,607,350
平成 31 年 1 月	70	339.0	375.0	28	2,467,410
平成 31 年 2 月	70	333.0	349.0	28	2,352,630
平成 31 年 3 月	67	437.0	393.5	28	2,670,760
合 計	884 名	4330.8 時間	4769.0 時間	251 回	31,657,920

平成 30 年度 サン・フラワー診療所事業報告

1. 事業概況

サン・フラワー苑入居者、職員を中心に日常生活の健康管理に努め、感染防止対策を行い患者様の診療及び健康診断、予防接種の実施を行い、健康管理及び健康相談に取り組んだ。

診療活動としては、適切な診察と看護処置を行い定期的な受診、処方、検査を行い疾病の早期発見に努めた。

又ケアハウスとの連携を密にして治療と看護の継続を図った。

2. 受診者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
患者数	157	179	168	170	156	154	193	176	139	139	123	136	1890
職員健診	0	0	0	15	8	0	0	0	0	0	0	1	24

3. 受診患者の主な疾患と傾向

主な疾患は高血圧、脂質異常、骨粗鬆症、糖尿病、認知症が多い。次いで狭心症、心不全等循環器系疾患がつづく。傾向としては骨粗鬆症に伴う腰椎圧迫骨折、膝関節症が多い。

診療では、例えば高血圧について等健康管理についての相談もあり、栄養士、看護職、介護職員との連携を図っている。また、複数の疾患をもつ患者は大多数を占め、皮膚疾患（掻痒症、爪白癬、胼胝、鶏眼）も多い。外科的処置（創傷処置、温熱療法）の他、便秘対策で下剤の処方あり、今後も継続して対処していく。入居期間が長くなると年々要介護認定者が増える為、医師意見書等の書類作成が多かった。

4. 健康診断の実施

- ・後期高齢者健康診断…松江市と受託契約を交わして8月～10月に実施
- ・雇入れ健康診断
- ・職員健康診断

*入居前に健康診断を依頼し、入居時健康診断書を提出してもらう

5. 予防接種の実施

インフルエンザワクチン予防接種、肺炎球菌ワクチンの予防接種実施する。

年間を通してインフルエンザの罹患者なし。感染性胃腸炎の罹患者なし。

事業報告の附属明細書

平成 30 年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、
事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人ふれあい